

特許協力条約

発信人 日本国特許庁 (国際調査機関)

代理人 木村 満 あて名 〒101-0054 日本国東京都千代田区神田錦町二丁目7番地 協販ビル2階	RECEIVED APR 27 2005 LASHIDA & KIMURA	様
--	---	---

PCT
 国際調査機関の見解書
 (法施行規則第40条の2)
 [PCT規則43の2.1]

発送日
 (日.月.年)

26.04.2005

出願人又は代理人 の書類記号 04F062-PCT	今後の手続きについては、下記2を参照すること。	
国際出願番号 PCT/J P 2004/019426	国際出願日 (日.月.年) 24.12.2004	優先日 (日.月.年) 26.12.2003
国際特許分類 (IPC) Int.Cl. ⁷ G10L15/22, B60R16/02, G01C21/00, G08G1/0969, G09B29/10, G10L15/00, 15/18, 15/28		
出願人 (氏名又は名称) 株式会社ケンウッド		

1. この見解書は次の内容を含む。 <input checked="" type="checkbox"/> 第I欄 見解の基礎 <input type="checkbox"/> 第II欄 優先権 <input type="checkbox"/> 第III欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解の不作成 <input type="checkbox"/> 第IV欄 発明の単一性の欠如 <input checked="" type="checkbox"/> 第V欄 PCT規則43の2.1(a)(i)に規定する新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解、それを裏付けるための文献及び説明 <input type="checkbox"/> 第VI欄 ある種の引用文献 <input type="checkbox"/> 第VII欄 国際出願の不備 <input checked="" type="checkbox"/> 第VIII欄 国際出願に対する意見
2. 今後の手続き 国際予備審査の請求がされた場合は、出願人がこの国際調査機関とは異なる国際予備審査機関を選択し、かつ、その国際予備審査機関がPCT規則66.1の2(b)の規定に基づいて国際調査機関の見解書を国際予備審査機関の見解書とみなさない旨を国際事務局に通知していた場合を除いて、この見解書は国際予備審査機関の最初の見解書とみなされる。 この見解書が上記のように国際予備審査機関の見解書とみなされる場合、様式PCT/ISA/220を送付した日から3月又は優先日から22月のうちいずれか遅く満了する期限が経過するまでに、出願人は国際予備審査機関に、適当な場合は補正書とともに、答弁書を提出することができる。 さらに選択肢は、様式PCT/ISA/220を参照すること。
3. さらに詳細は、様式PCT/ISA/220の備考を参照すること。

見解書を作成した日 12.04.2005	
名称及びあて先 日本国特許庁 (ISA/J P) 郵便番号100-8915 東京都千代田区霞が関三丁目4番3号	特許庁審査官 (権限のある職員) 石丸 昌平 電話番号 03-3581-1101 内線 3539

様式PCT/ISA/237 (表紙) (2004年1月)

BEST AVAILABLE COPY

第 I 欄 見解の基礎

1. この見解書は、下記に示す場合を除くほか、国際出願の言語を基礎として作成された。

- ☐ この見解書は、_____ 語による翻訳文を基礎として作成した。
それは国際調査のために提出された PCT 規則 12.3 及び 23.1(b) にいう翻訳文の言語である。

2. この国際出願で開示されかつ請求の範囲に係る発明に不可欠なヌクレオチド又はアミノ酸配列に関して、以下に基づき見解書を作成した。

- a. タイプ ☐ 配列表
☐ 配列表に関連するテーブル
- b. フォーマット ☐ 書面
☐ コンピュータ読み取り可能な形式
- c. 提出時期 ☐ 出願時の国際出願に含まれる
☐ この国際出願と共にコンピュータ読み取り可能な形式により提出された
☐ 出願後に、調査のために、この国際調査機関に提出された

3. ☐ さらに、配列表又は配列表に関連するテーブルを提出した場合に、出願後に提出した配列若しくは追加して提出した配列が出願時に提出した配列と同一である旨、又は、出願時の開示を超える事項を含まない旨の陳述書の提出があった。

4. 補足意見：

第V欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についてのPCT規則43の2.1(a)(i)に定める見解、それを裏付ける文献及び説明

1. 見解

新規性 (N)	請求の範囲	<u>2, 3, 7-10, 12, 16-19, 21, 22, 26-30, 32, 36-39, 41, 45-48, 50, 54-81</u>	有
	請求の範囲	<u>1, 4-6, 11, 13-15, 20, 23-25, 31, 33-35, 40, 42-44, 49, 51-53</u>	無
進歩性 (IS)	請求の範囲	_____	有
	請求の範囲	<u>1-81</u>	無
産業上の利用可能性 (IA)	請求の範囲	<u>1-81</u>	有
	請求の範囲	_____	無

2. 文献及び説明

文献1:JP 2000-20086 A (株式会社デンソー) 2000.01.21

全文、図 1-9 (ファミリーなし)

文献2:JP 2001-249686 A (松下電器産業株式会社) 2001.09.14

全文、図 1-7 (ファミリーなし)

文献3:JP 2002-341892 A (松下電器産業株式会社) 2002.11.29

全文、図 1-5 (ファミリーなし)

文献4:JP 2000-330588 A (株式会社東芝) 2000.11.30

全文(特に段落【0012】)、図 1-13 (ファミリーなし)

文献5:JP 2003-44088 A (ソニー株式会社) 2003.02.14

全文(特に段落【0003】)、図 1-7 & WO 2003/10756 A1 & US 2004/15344 A1

文献6:JP 8-339288 A (キャノン株式会社) 1996.12.24

全文、図 1-5 (ファミリーなし)

請求の範囲1, 4-6, 11, 13-15, 20, 23-25, 31, 33-35, 40, 42-44, 49, 51-53に係る発明(音声認識手段等)は、国際調査報告で引用された文献1に記載されているので、新規性、進歩性を有しない。

請求の範囲1-81に係る発明は、国際調査報告で引用された文献1-6により進歩性を有しない。文献1-3には、「音声認識手段、発話内容特定手段、所定の制御を実行する処理実行手段を備えた装置」が記載されている。なお、文献1には、「共通ないし異なる複数のカテゴリ(ジャンル)により発話内容を特定する」ことが、文献3には、「履歴から発話内容を特定する(発話内容の信頼性を検証する)」ことや「通信手段」が、それぞれ記載されている。また、文献4には、「所定の品詞の語句のみに基づいて発話内容を特定する」ことが、文献5には、「より判別しやすい表現での入力を促す」ことが、文献6には、「音声により提示する」ことが、それぞれ周知ないし慣用技術(従来技術)として記載されている。よって、文献1-3の装置に、文献4-6の周知ないし慣用技術を付加することは、当業者にとって容易である。

第Ⅶ欄 国際出願に対する意見

請求の範囲、明細書及び図面の明瞭性又は請求の範囲の明細書による十分な裏付についての意見を次に示す。

請求の範囲1－81における、「発話内容」とは具体的に如何なる技術内容を指すのか、不明確。よって、発話内容を特定する「特定手段」の技術的特徴や具体的技術内容も不明確。なお、当該請求の範囲には、「人間が言語の形で発する指示を完全に(音声)認識する」という課題(段落3)を解決し得る構成が記載されているとも認められない。

BEST AVAILABLE COPY